

＜ 今日の説教のポイント ルカによる福音書 24 章 1～12 節 ＞

「分からない」から始まっていい、キリスト教の信仰。

1 「十字架が分からない」から「復活が分からない」へ。

先週、初めて聖書を読む者にとってはイエス様の十字架の死の意味が分からないことを考えました。しかし、それ以上にイエス様の復活は理解できないことではないでしょうか。しかし、これも、十字架について言ったことと同じです。つまり、私たちの頭の中だけでぐるぐる考えていても分かるものではないのです。なぜでしょうか？

2 復活も、もし全能の神様が起こされたのならあり得る出来事。

聖書は、これらの出来事は神様が起こされたと伝えています。もし全能の神様が本当におられてこれを起こされたのなら、これらの出来事を端から否定するより、あり得ると考えることから始める方が真つ当です。問題は、ではなぜ神様がそのようなことを起こされたのか、です。その答は「輝く衣を着た二人」(4)が語った言葉の中に探し求めることができます。なぜなら、彼らは神様から遣わされたからであり、神様の思いをその言葉の中に見ることができるからです。

3 復活理解の鍵：神様の使いが語ったことの中にそのヒントがある。

彼らが語ったことは、①イエス様は復活なされた、②それはイエス様ご自身が予告されていた、の二つです。確かに、イエス様は御自分の死と復活を予告されていました(9:22, 44, 18:31-34)。しかし、婦人たちも、この後報告を受けた 11 弟子も、彼らが主の復活を信じる者となったのはこの時ではなく、復活の主と出会った時でした(24:13 以下で次々と)。では、今日の個所の出来事は何の意味も持っていないのでしょうか。そうではないと思います。死と復活について分らないなりに聞いていたこと、それが少しずつ、人間には理解できない主の復活を受け入れる素地を作り出してくれていたのではないのでしょうか。そして、復活の主と出会った彼らが主の死と復活が持つ意味＝私たちの罪深さとそれを赦し給う神の憐み深さを深く理解し、宣べ伝え出したのです。それが神様のなさり方であり、神様の意に適う順序だったので。復活の主はトマスに言われました、「私を見たから信じたのか。見ないのに信じる人は幸いである」(ヨハネ 20:29)。今の私たちがまさにこの「見ないのに信じる人」であり、それでいいのです！